

喜界町図書館

図書館だより

2月号

〒891-6201喜界町大字赤連小字樋口前30番地



【通算 第224号】

2015(平成27)年2月21日発行

TEL:0997-65-0962

FAX:0997-65-2523

e-mail:kikailib@town.kikai.lg.jp

蔵書点検作業が終了しました。1月28日より2月7日までの蔵書点検作業では、利用者の皆様には不自由おかけしました。お蔭様で滞りなく点検を終えることができました。



毎月23日は、
子どもといっしょに読書の日

「本は家族の一員です！」

貸出カードを作いませんか(無料)!

0歳児から発行できます。

○ 図書・紙芝居など 10冊

○ CD・DVD 2点 計 12点まで

☆ 貸出期間は15日間です。

本は

楽しい・おもしろい
悲しみや怖さを教えてくれる
心の安らぎをくれる
いやなことを忘れさせてくれる
感動することのすばらしさを教えてくれる

本から

さまざまなことを知ることが出来る
未知の世界をのぞき見することができる
想像する楽しさを知ることができる

生きていくと、喜びもたくさんありますが、
悲しみや怖さも避けて通れないものです。
主人公の体験を自分のことのように感じる事が、
現実遭遇するときの心の強さになってくるのです。
—読み聞かせの本より—

募集中!

★読み聞かせボランティアを
募集しています。

☆ 読み聞かせに興味のある方
図書館で随時受付

(3月) 図書館カレンダー

※ 休館日です。(毎週月曜日、第1木曜日)

・開館時間 午前10時～午後6時

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
	休館日			資料休館日		おはなし会
8	9	10	11	12	13	14
	休館日			団体貸出 各保育園・各幼稚園・子育て支援・早稲大学 回収日 全学年	移動図書館	おはなし会
15	16	17	18	19	20	21
	休館日		子育て支援来館日			おはなし会
22	23	24	25	26	27	28
	休館日					おはなし会
29	30	31	4/1	4/2	4/3	4/4
	休館日					

おはなし会・ミニ映画

毎週土曜日 午後2時～2時40分

1月統計
(開館日数20日)

・貸出し冊数 H26年度合計
5,426冊 38,187冊
・来館者数 H26年度合計
1,226名 15,358名

《喜界島の歴史・伝承・伝説を探る》～2月号～

喜界島の謎・幻の時代(古代より中世・近世の時代)

土師器や須恵器、滑石製石鍋など日本本土産の遺物が多く出土する点も特徴として挙げられる。土師器には、「く」の字状の口縁を持つ甕形土器が多く見られる他、碗や杯、黒色土器が少量出土している。須恵器については、小破片が多く器形復元可能な資料は少ないが、大甕の破片などが含まれている。一方で、古墳時代～古代相当期の奄美諸島在地土器(在住している土地の土器)として普遍的に見られる兼久式土器(高梨2005)はほとんど出土しておらず、本土産遺物の出土状況とは好対照をなしている。

滑石製品(柔らかくて、蠟(ろう)のような感触があり、白色・帯緑色などを呈する。電気絶縁材・滑材・陶磁器などに用いる。)については、城久遺跡群での出土量は卓越している。出土している滑石製石鍋片は縦耳を有するものが散見され、少数であるが大型の破片で接合可能な資料が含まれる。これらは11世紀代に位置づけられている。(木戸1993)なお、滑石製品には、割れたままの破片や穿孔(せんこう:突き抜けた穴、穴)を有したり破断面に擦痕(さつこん:こすった傷跡)を有するものなど二次加工品の素材とみられるもののほか、棒状やスタンプ状に加工された二次加工品が散見される。本遺跡群で出土した滑石片のおおむね半数以上には何らかの加工痕が残されており、二次利用率が高いことも注目される。滑石鍋の搬入方法や消費形態の検討が必要である。

最後に、城久遺跡群の立地状況の視点を記して、現段階の概要をまとめてみたい。

まず、標高約140m～160mの段丘状に立地する山田中西、山田半田、半田口、小ハネ遺跡では大型建物跡やそれに付随する住居・倉庫群が展開する。これに対して一段低い標高約120mの前畑、大ウフ遺跡では、堀立柱建物跡に加え鍛冶炉や鍛冶関係遺物が集中する地点があり、鍛冶などの工房的機能を果たした地点の存在が推定される。これらの遺構はそれらの地点以外にも広がりが見られ、時間的・空間的な変遷を想定する必要があるが、おおむね、各遺跡の立地条件によって果たした機能・性格に差異が見られることは、近年の調査により明らかになりつつある。

遺物面から各遺跡の展開時期を見ると、越州窯系青磁や土師器、須恵器など古代相当の遺物や13～14世紀頃とみられる龍泉窯系青磁などから若干の時期幅はみられるものの、半田遺跡を除いて各遺跡の中心時期はおおむね11世紀～12世紀前後であるといわれる。

引用文献資料: 喜界島城久遺跡群の発掘調査 澄田直敏・野崎拓司
古代末期の境界世界～城久遺跡群と石江遺跡群を中心として～
ヨーゼフ・クライナー、古成直樹、小口雅史 編
沖縄大百科事典 広辞苑
古代中世の境界領域 キカイガシマの世界 池田榮文編



《おとなの本》

- ☆ 『サラバ! 上・下』 西 加奈子著 小学館
中東で生まれ、育った主人公、坏歩(あくつあゆむ)の誕生から中年になるまでの、平凡な物語。
- ☆ 『管見妄語 とんでもない奴』 藤原 正彦著 新潮社
辛辣さとユーモアで世の中の真理をすくい取る。待望の大好評シリーズ第5弾!
- ☆ 『避難所』 垣谷 美雨著 新潮社
東日本大震災で露わになった家族の実像。段ボールの仕切りすらない体育館で、絆を押しつけられ、残された者と環境に押しつぶされる3人の妻。家族の問題と真の再生を描く問題作。
- ☆ 『翼を持つ少女』—BISビブリオバトル部
山本 弘著 東京創元社
- ☆ 『バカになったか、日本人』 橋本 治著 集英社
- ☆ 『農業再生人間再生』 大切にしたい目に見えないもの
木村 秋則著 どう出版
- ☆ 『鼠、滝に打たれる』 赤川次郎著 KADOKAWA
- ☆ 『まちライブラリーのつくりかた』—本で人をつなぐ—
磯井 純充 著 学芸出版社

あたらしい本

《子どもの本》



- ☆ 『しろくまだって』 新装版—White Bear Brothers—
斉藤 洋 著 小峰書店
マルクとカールはしろくまの兄弟。人間の落としていったラジオで言葉をおぼえた二人は、まちへ出て、しろくまじりの宅急便で大当たり。好奇心にあふれた二人の生き方がユーモアに描かれている。
- ☆ 『マリー・キュリー』 イ スクチャ 著 岩崎書店
(オールカラーまんがで読む知っておくべき世界の偉人 15)
放射線の研究によって二度のノーベル賞を受賞した、マリー・キュリー。幼いころから、本が好きだったマリーが、苦学の末に偉大な研究成果を残すに至った姿を描く。
- ☆ 『パオズになったおひなさま』 佐和 みずえ著 くもん出版
愛花の家では、ひなまつりにおばあちゃんだけがつかれる肉まんが食卓に……。その理由は、おばあちゃんが今から70年ほど前に、中国・大連に住んでいた頃にさかのぼる。
- ☆ 『ねこどんなかお』 MAYA MAXX 著 講談社
- ☆ 『太陽の草原を駆けぬけて』 ユーリー・オルリブ著
岩波書店
- ☆ 『ホネホネザウルス13』 カバヤ食品株式会社 著
—ティラノ・ベビーとミラクルツリー— 岩崎書店